

非核三原則の堅持を求める意見書

高市内閣は、安全保障関連三文書の改定に伴い、非核三原則の見直し議論を与党内で開始させる検討を始めたと報道されています。核兵器を「持ち込ませず」の概念が、米国の核抑止力の実効性を低下させかねないとの議論があるからです。

しかし、「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」をいう非核三原則は、唯一の戦争被爆国として歴代政権が国是として堅持してきた重要な政策です。安易にそれを見直すことは、核兵器のない世界に向けた取組に逆行しかねません。

我が国に核兵器が持ち込まれることを許せば、核攻撃の標的になるおそれさえ生じます。広島、長崎の悲劇を再び繰り返すことは絶対にあってはなりません。

尾道市は非核平和都市宣言を行い、核兵器のない平和な世界を目指す活動を積極的に行ってきました。その取組を実効あるものとするためにも、これまで堅持してきた非核三原則は、一歩たりとも後退させることなく、その堅持を図るべきと考えます。

よって、政府及び国会におかれましては、非核三原則を堅持し、核兵器のない世界に向けた取組を一層強化されるよう強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和7年12月16日

尾 道 市 議 会

関係行政庁及び国会あて